

必要があるだろう。

新聞の切り抜きの取扱いについては、研究者によって様々であるが、ここでは運動の流れの全体をつかむうえでの一つのレファレンスとして、積極的に活用してゆく。また、ここでは、新聞記者の運動への一定の関わりをも含意している。新聞記者がどれだけ運動に貢献したか、果たして運動の「主体」だったのか、といった論議はここではあまり意味がない。複数の主体間の社会的相互作用 (Social Interaction) によって事象や運動が決定され、動いてゆくとするなら、新聞記者は報道するという行為によって社会的相互作用における「主体」として、参与しているといえよう。報道しようという意図がなければ、いかなる記事も生まれ得ない。

以上、私達なりの若干の提言をさせていただいた。

8/16/1985

中央大学文学部 堀川 三郎
社会学専攻3年
小樽商科大学商学部 小野 登